

川上あさき新聞

Vol. 10

2022年初夏号

自民党芦屋市議団
〒659-8501 芦屋市精道町
7-6 芦屋市議会
TEL 050-3395-5027
FAX 050-3457-4872



市政にジャーナリストの視点を



元産経新聞記者

行財政改革は途上

スリム化前提、賛成も

事業費の膨張に伴う市民への負担増から見直しを求めてきたJR芦屋駅南地区再開発事業。芦屋市が将来の負担軽減に向け行財政改革に取り組み姿勢を示したことなどを踏まえ、賛成に至りました。ただし、組織のスリム化を目指す上で行財政改革の肝となる市職員の定員管理に關して具体案は示されておらず、今後の推移を厳しくチェックする必要があります。

駅前交通課題の解消を目指す再開発事業をめぐっては、2020年2月、市が議会に対して事業費が従来よりも58億円増加した1

88億円になるとの報告を突如として提示。ほぼ同時に2027年には基金残高がゼロになり、2029年にはマイナス9億円になる



整備が進むJR芦屋駅南地区

という危機的な財政見込みを発表。この状況下においては「このまま再開発事業を進めるわけにはいかない」との判断に至り、事業費削減と行財政改革を強力に推進するように求めてきました

た。市はその後、総事業費を約30億円削減する案を提示。さらに今議会で職員の定員管理を実施し、年度ごとに報告するとし、基金残高見込みが2027年に95億円に改善するとしたことが賛成の主な理由です。また、ラポルテ市民サービスコーナーなど同駅北との一体運用も検討することです。

一方、行財政改革に向けた職員の定員管理に關しては、数値目標といった具体策はなく、その効果は「期待値」に過ぎません。人口減、公共施設の老朽化が本格化するなか、財政悪化の懸念払拭に向けた取り組みの本気度を注視していきたいと思います。

議員報酬5%削減 コロナ対策に注力

新型コロナウイルス感染拡大の長期化に伴い、市民生活に影響が出ていることなどを受け、今年4月から来年3月までの1年間、議

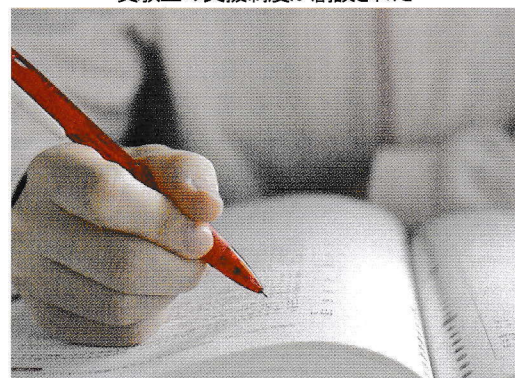
大学受験料10万円給付、条件緩和求める

経済的な理由により大学などへの進学を断念することがないように芦屋市は今年度から非課税世帯相当の受験生を対象に受験料を給付する制度を開始します。

全国的にも珍しい取り組みで、上限は10万円で3校まで。合否不問で、申請は1人1回限り。受験費用は、大学入学共通テスト（1万2000～1万8000円）、私大（約3万5000円、歯・医学部4万～6万円）、国公立大（約1万7000円）となっています。

兵庫県内の大学進学率は64.3%（2021年、全国平均54.9%）の全国3位で、本市でも大学進学熱は高いのが現状。現行

受験生の支援制度が創設された



では大学、短大などが対象ですが、専門学校への進学希望者もあり、さらなる対象の拡大を求めていると考えています。

員報酬を5%削減することが決まりました。削減により捻出された金額の使途として「市独自のコロナ対策に向けた事業」に充当することを求めた付帯決議が自民党の福井美奈子議員から提出され、可決されました。2020年7月から21年

3月にかけても、コロナ感染拡大を理由に議員報酬を5%カットしています。



本市の新型コロナウィルス対策ホームページ

ごあいさつ

たな変異ウイルスへの懸念がぬぐえないまま新年度がスタート。国外に目を向けますとロシアによるウクライナに対する軍事侵攻に伴う物価高や景気への影響を注視する必要があります。今回は予算特別委員会や常任委員会での審議を中心に報告いたします。

ロシアのウクライナ侵攻問題で芦屋市議会は「容認することができない暴挙」などとする抗議文を駐日ロシア大使館に送付しました。ウクライナに対する募金活動も行いま

ウクライナ侵攻

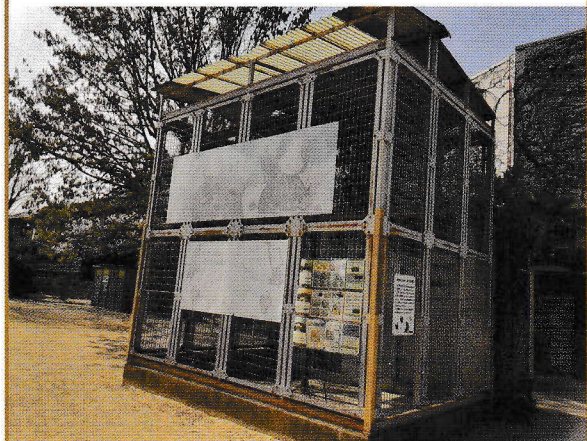
露大使館に抗議文

ロシアのウクライナ侵攻問題で芦屋市議会は「容認することができない暴挙」などとする抗議文を駐日ロシア大使館に送付しました。ウクライナに対する募金活動も行いま

保健所など統廃合 反対署名1879筆提出
県が示した芦屋保健所（公光町）や芦屋警察署南芦屋浜駐在所（陽光町）の統廃合計画を受け、自民党市議団として施設維持を求める署名活動を実施。署名数は1879筆に上り、県知事に送付致しました。

コロナ禍における保健所や安全安心のまちづくりに欠かせない駐在所の存在は市民生活に大きな影響を与えます。駐在所に関しては「南芦屋浜駐在所」として運用し、高浜交番勤務員の立ち寄りやパトカー勤務員の駐留警戒の拠点とするとの報告を受けました。今後も県方針を注意深く見守ってまいります。

打出公園にある「サル ORI」



コラム 窓

作家、村上春樹氏のデビュー作、「風の歌を聴け」。本市をモデルとした海辺の街を舞台に大学生のひと夏の出来事を綴った作品で、「サル ORI」のある打出公園（打出小槌町）が印象的に描かれています。市は公園を広く活用するため、リニューアル計画を策定、ORIを撤去する方針ですが、今議会ではORIの存続について幅広く民意を問うアンケートを求め

村上文学生かすまちづくり

まずは打出公園整備を

る陳情が提出されました。私は早期着工を求め、陳情採択に反対しましたが多数を得ず、採択となりました。既にORIは使われなくなつて10年以上たち、地元自治会のアンケートでも7割が撤去に同意。一方、市は公園内に作品に関するモニュメントを作成する方針です。ファンが多い村上氏の作品を生かすまちづくりも「芦屋ブランド」の向上には一役買

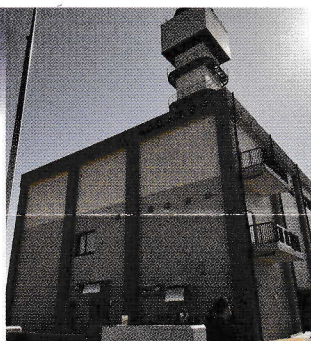
えるでしょう。モニュメントはそのための具体的な提案と言えます。住民意思を確認するものとはいえず、市方針を安易にアンケートに問い、左右することになれば、議会の存在意義も問われかねず、市政の混乱にもつながりかねません。陳情採択が本当に地域の利益につながることになるのか。議会も市もよく考えて結論を出す必要があります。

防災力が向上

海上保安庁は神戸ポートアイランドで来年稼働予定の大阪湾海上交通センター「神戸レーダー施設」を公開しました。南芦屋浜地区で甚大な浸水被害が出た2018年9月の台風21号を教訓に海域監視による船舶・漂着物による事故防止につなげようと、同庁が整備を推進していました。

災害時は防潮堤といったハ

神戸レーダー施設 来年稼働



新設される「神戸レーダー施設」。沿岸部の防災力向上に期待がかかる

ード面での整備に加え、レーダー施設による情報提供というソフト面での対策も重要です。災害時の安全安心につなげるような運用に期待します。

編集後記

庭園都市を目指す本市でも花が咲き乱れるようになった。本市が優れた現代詩集を表彰する「富田碎花賞」の第1回受賞者、長田弘氏は「幸福はなんだと思うか？」との問いに「いつの年も春のはじめは春の訪れを感じる余裕はないかもしれないが、そんな時代にも確実に季節は巡る。春を早期に導くためには私たちができるとは何かが。事は日本一国で済む問題ではないが、少なくとも無関心のままでいいはずはないと自戒している。

【川上朝栄（かわかみ・あさえ）プロフィール】

1973年12月生まれ、48歳。妻と娘2人の4人家族。岡山白陵高校を経て、学習院大学経済学部卒業後、産経新聞社に記者として入社。内閣府や東京証券取引所キャップ等を務め、政治経済の現場を取材。著書に「関西経済大研究」「達人の世界」（産経新聞出版、共著）。趣味はテニス、スキー。高校野球鑑賞。資格：社会福祉主事、介護職員初任者



Facebook



Twitter